



平成30年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校 6 年生、中学校 3 年生

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（国語 A、算数・数学 A）
- ・主として「活用」に関する問題（国語 B、算数・数学 B）
- ・理科

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

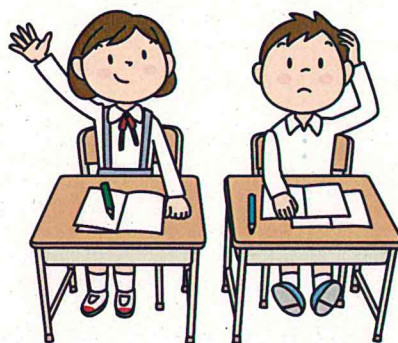
悉皆調査

(5) 調査期日

平成 30 年 4 月 17 日 (火)

(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	11 校	11 校（100%）	377 人
中学校	7 校	7 校（100%）	404 人



2. 教科に関する調査結果

1 概要について

小・中学校とも良好な状況です

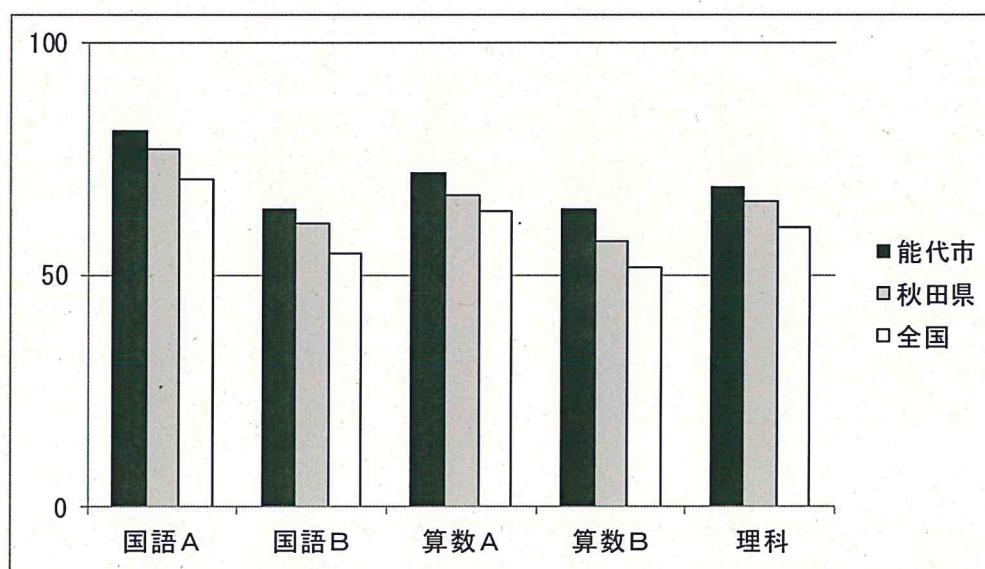
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・B、理科の全てで全国平均を上回っています。

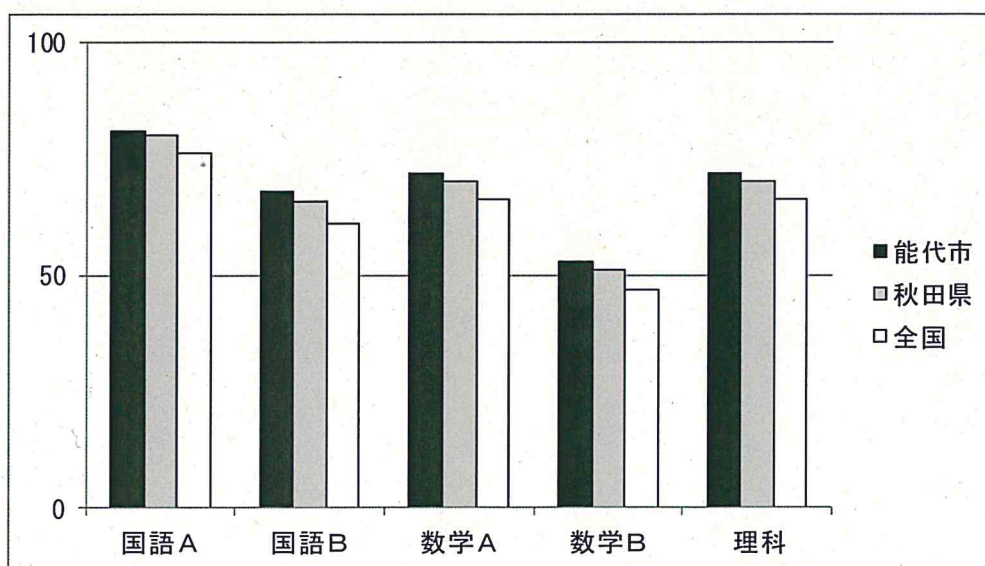
(2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・B、理科の全てで秋田県平均を上回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率

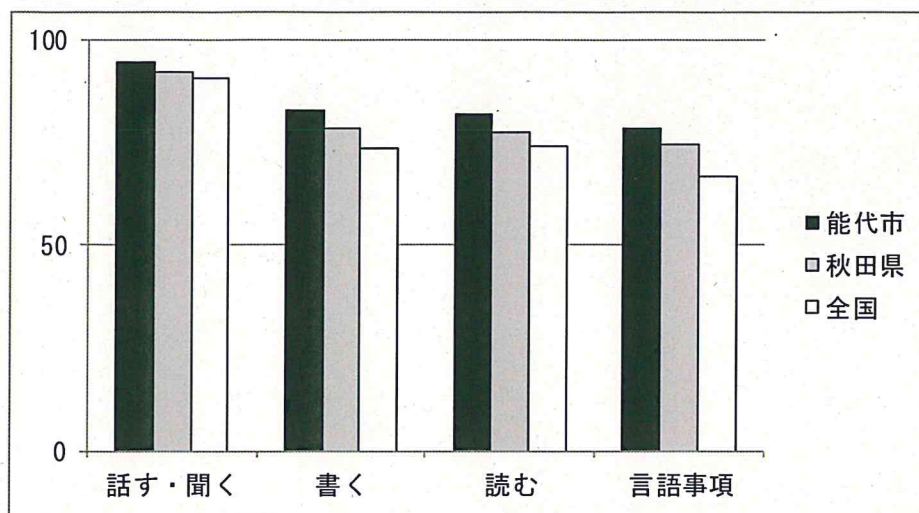


(4) 中学校3年生平均正答率



3. 教科に関する調査結果(小 国語A)

1 小学校国語Aについて（主として知識に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全12問中、全てにおいて全国及び秋田県平均を上回っています。



日常生活で使われている慣用句（心を打たれる）の意味を理解し、使う問題の正答率が特に高かったです。【設問6】

更なる向上を目指して

文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く問題 【設問5】



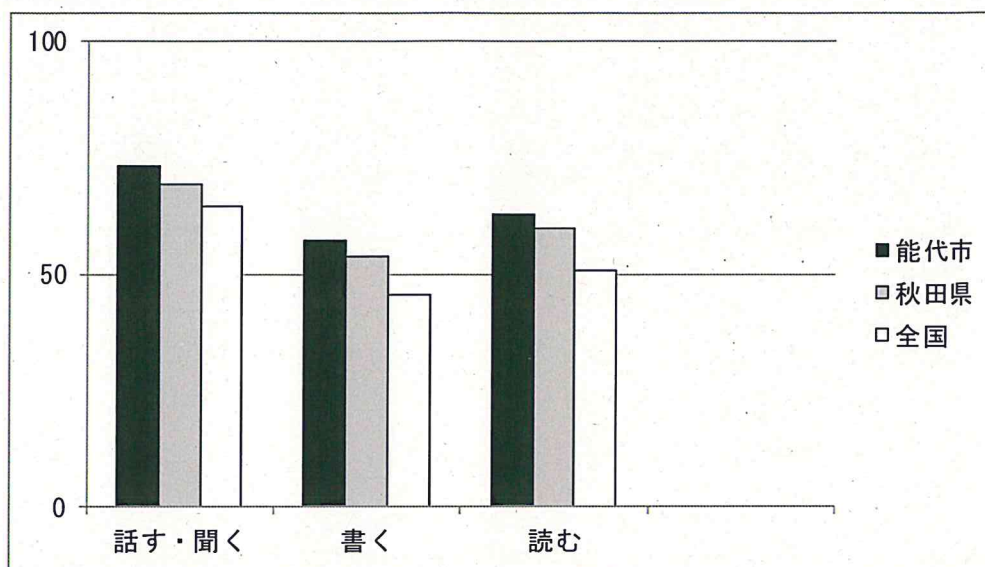
指導のポイント

この問題では、主語と述語の関係が捉えにくくなっています。それは主語が人ではなく「反省点は」になっているところです。さらに、述語に当たる部分が「用具の手入れをあまりしませんでした」というように動作を表す表現になっています。主語と述語を適切に照応させるに、述語の部分に「こと」を補って書くように指導しましょう。

参照…H30 文部科学省報告書
小学校国語 P37～39

3. 教科に関する調査結果(小 国語B)

1 小学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全8問中、全てにおいて全国及び秋田県平均を上回っています。



話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題の正答率が高かったです。

【設問1ー】

指導のポイント

この問題では、「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと」を取り上げて書くことができていない誤答が見られました。

推薦理由を明確に伝えるためには、事例を挙げて具体的に説明することが有効です。事例を挙げて書く際に、必要な情報を集め、得た情報を適切に関係付けて書くように指導しましょう。

参照…H30 文部科学省報告書
小学校国語 P60～67

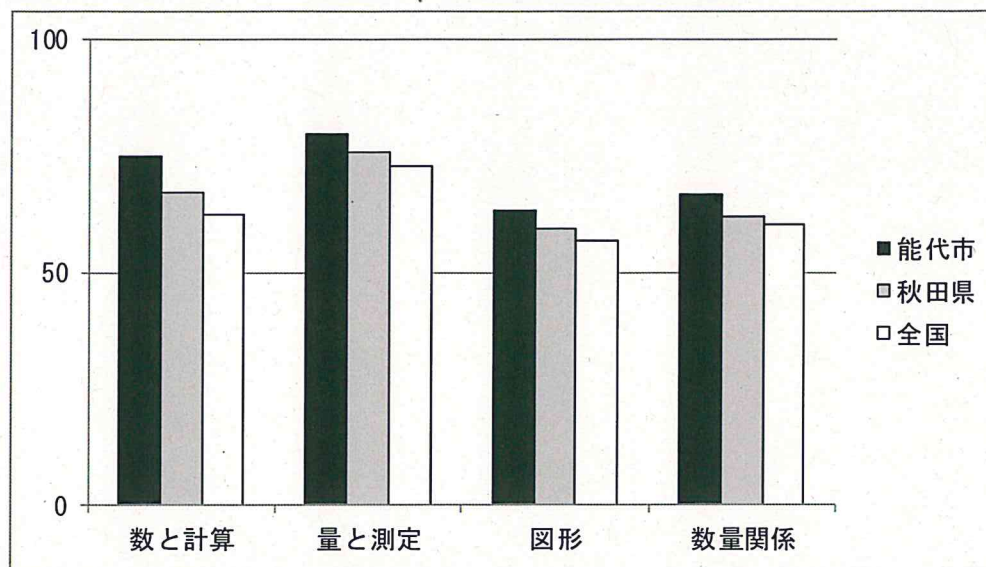
更なる向上を目指して

目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題 【設問2二】



3. 教科に関する調査結果(小 算数A)

1 小学校算数Aについて（主として知識に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を数直線上に表す問題が、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問1(2)】

更なる向上を目指して

円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題
【設問7(1)】

指導のポイント

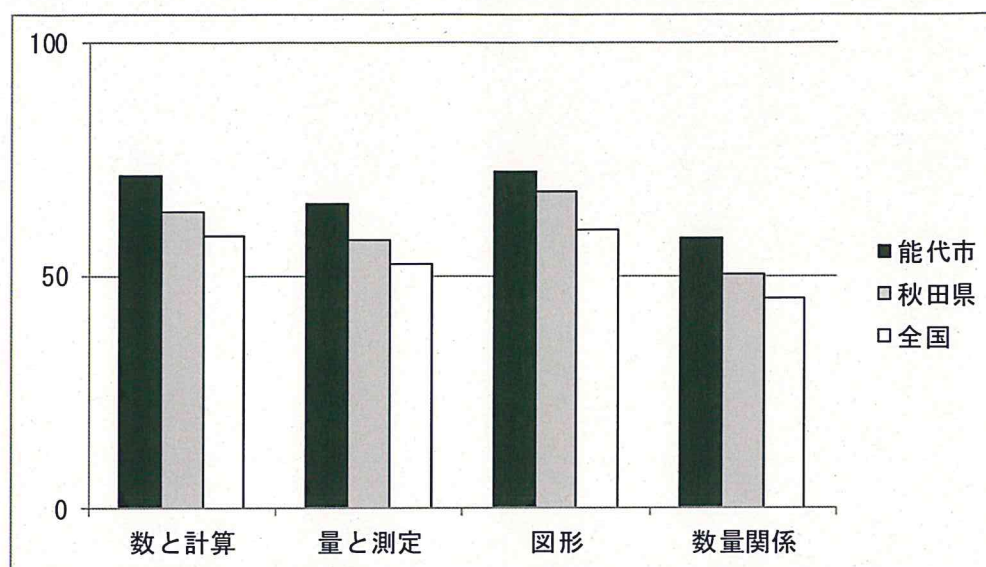
この問題は、円周率を求める式「円周の長さ÷直径の長さ」を答える問題です。

円周率について学習する際に、作業的・体験的な活動を取り入れ、円周率が円周の直径に対する割合であることを意識させましょう。

参照…H30 文部科学省報告書
小学校算数P52～55

3. 教科に関する調査結果(小 算数B)

1 小学校算数Bについて (主として活用に関する問題)



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全10問中、全てにおいて、全国及び秋田県平均を上回っています。



「 $30+42$ 」の答えが9の段の数になるわけを分配法則を用いた式で表す問題の正答率が高かったです。

【設問4 (1)】

指導のポイント

日常生活の事象をグラフに表したり、そのグラフから何が読み取れるのかを考えたりする学習を計画的に行いましょう。また、あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討する話し合い活動も有効です。

参照…H30 文部科学省報告書
小学校算数 P76～80

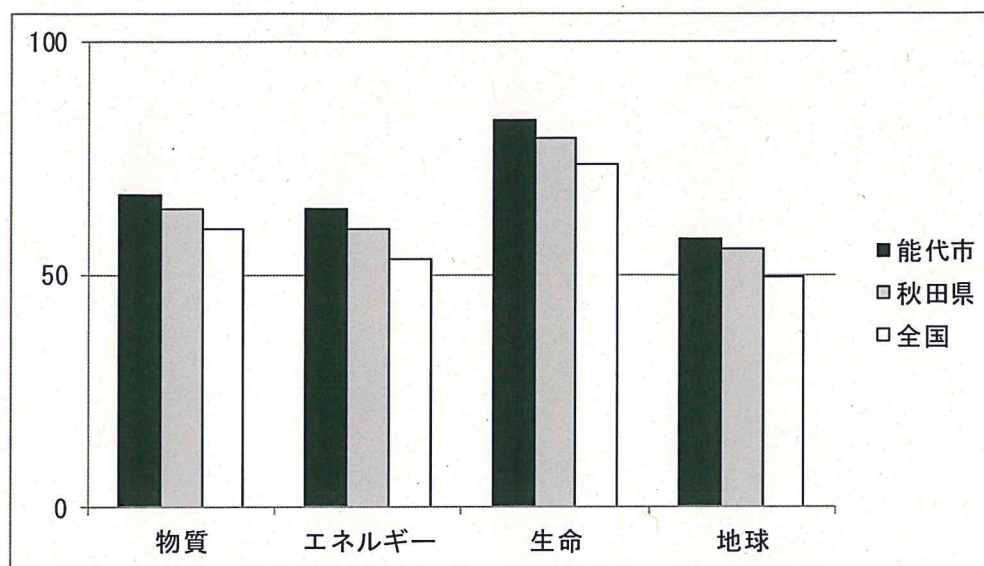
更なる向上を目指して

日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする問題 【設問3 (1) (2)】



3. 教科に関する調査結果(小 理科)

1 小学校理科について



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、15問が全国及び秋田県平均を上回っています。



腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く問題の正答率が高かったです。【設問1(3)】

更なる向上を目指して

実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、記述する問題 【設問4(4)】

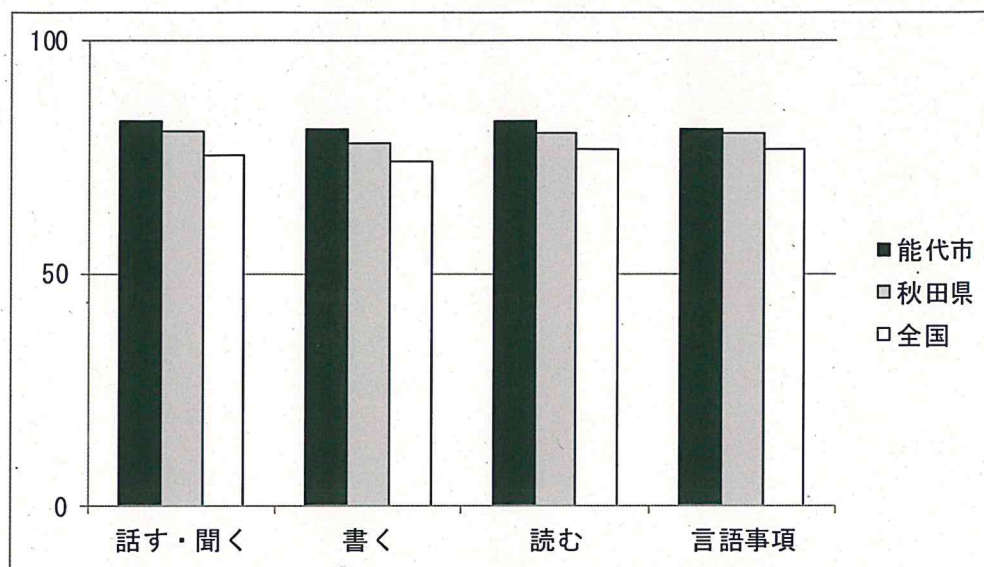
指導のポイント

学習を指導する際に、実験から得られた結果を事実としての確に捉え、事実から解釈したことを「実験の結果から言えること」として言及することが大切です。より妥当な考えに改善していくためには、問題解決の様々な場面で自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、自分の考えを見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動が考えられます。

参照…H30 文部科学省報告書
小学校理科 P61～63

3. 教科に関する調査結果(中 国語A)

1 中学校国語Aについて（主として知識に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全32問中、25問が全国及び秋田県平均を上回っています。



歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題の正答率が、全国及び秋田県平均を大きく上回っていました。
【設問8六2】

指導のポイント

文を書く際に、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切です。

参照…H30 文部科学省報告書
中学校国語 P59～61

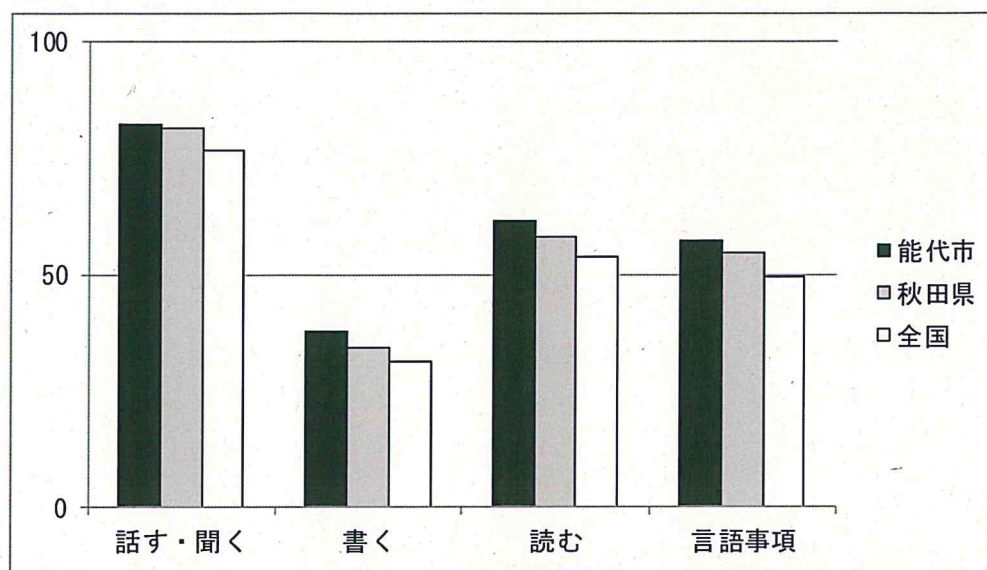
更なる向上を目指して

目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題 【設問8四2】



3. 教科に関する調査結果(中 国語B)

1 中学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。ただし、書くことの領域の正答率が低い状況でした。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全9問中、8問が全国及び秋田県平均を上回っています。



二人の質問の意図として適切なものを選択する問題の正答率が高かったです。

【設問2一】

更なる向上を目指して

「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題

【設問1三】

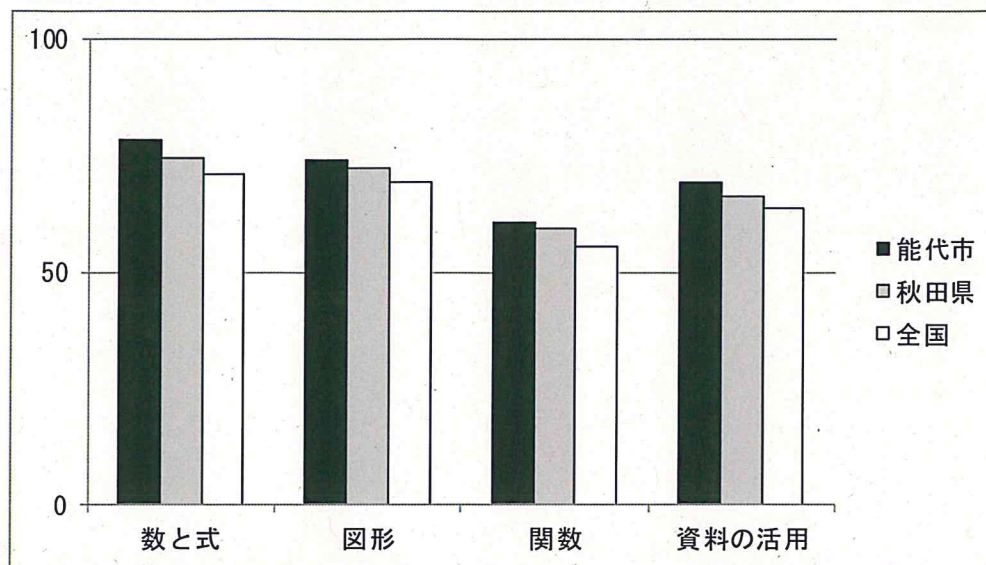
指導のポイント

目的に応じて文章の内容を的確に読み取るために、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実や意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切です。

参照…H30 文部科学省報告書
中学校国語 P66～72

3. 教科に関する調査結果(中 数学A)

1 中学校数学Aについて（主として知識に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全36問中、32問が全国及び秋田県平均を上回っています。



数量の大小関係を不等式で表す問題が、全国及び秋田県平均を10ポイント以上上回っていました。

【設問2(1)】

更なる向上を目指して

一次関数の意味を理解しているかどうかをみる問題
【設問12】

指導のポイント

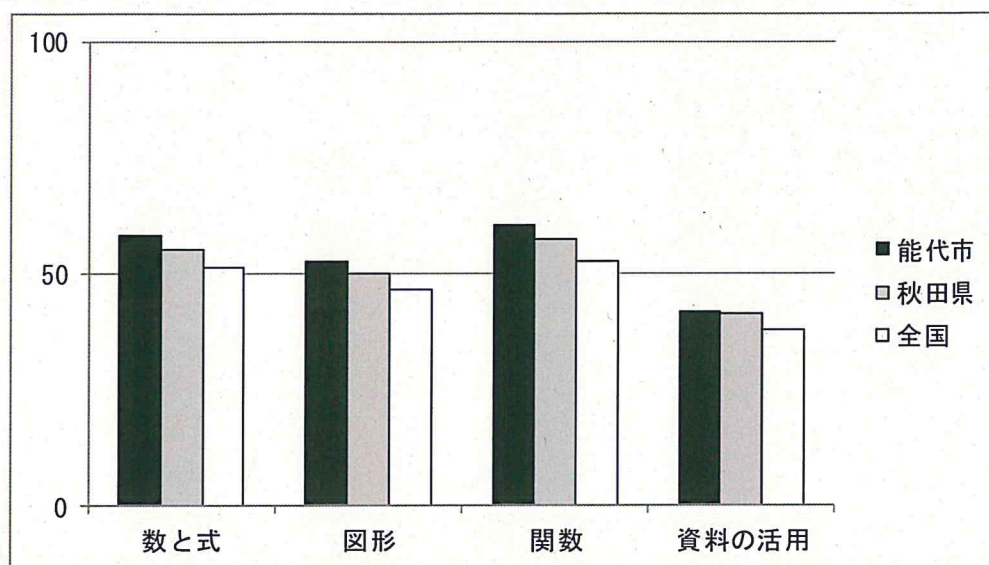
具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断する学習が大切です。

式に表すことが困難な児童には、具体的な数値で表を作ったりする活動などを取り入れることが考えられます。

参照…H30 文部科学省報告書
中学校数学 P82～83

3. 教科に関する調査結果(中 数学B)

1 中学校数学Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。ただし、資料の活用の領域の正答率が低かったです。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



グラフから、列車のすれ違いが
起こる地点のA駅からの道のりを
求める問題の正答率が高かったで
す。【設問3(2)】

指導のポイント

実生活の場面で、基準量・比較量・
割合を捉え、それらの関係を的確に式
に表す活動が大切です。その際、場面
に応じて割合を百分率や歩合を用いて
表現できるように指導することも必要
です。

参照…H30 文部科学省報告書
中学校数学 P128~130

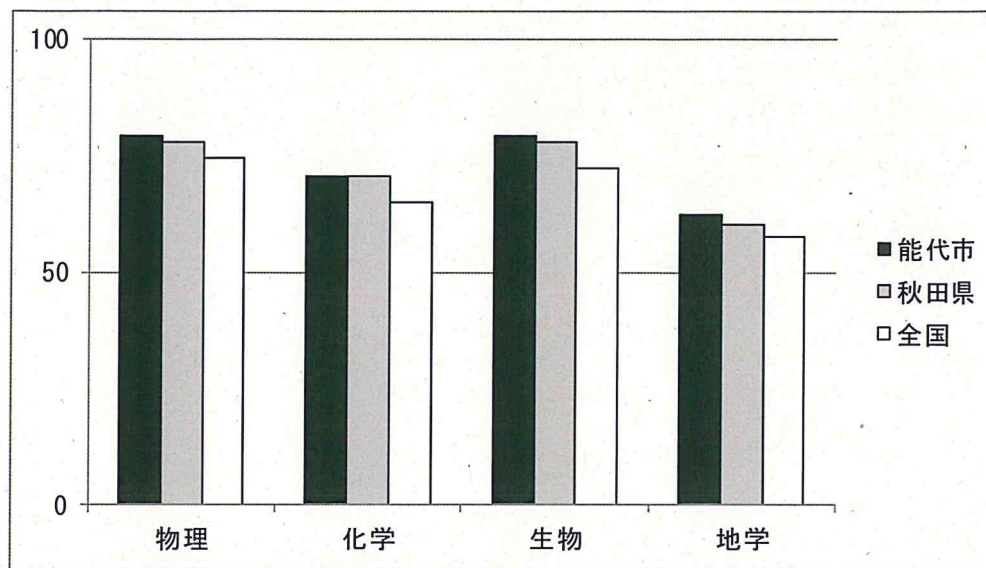
更なる向上を目指して

資料を活用し、団体料金が通常
料金の何%引きになっているか
を求める式を書く問題
【設問5(1)】



3. 教科に関する調査結果(中 理科)

1 中学校理科について



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全27問中、20問が全国及び秋田県平均を上回っています。



豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘する問題の正答率が高かったです。【設問6(3)】

更なる向上を目指して

植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題【設問9(2)】

指導のポイント

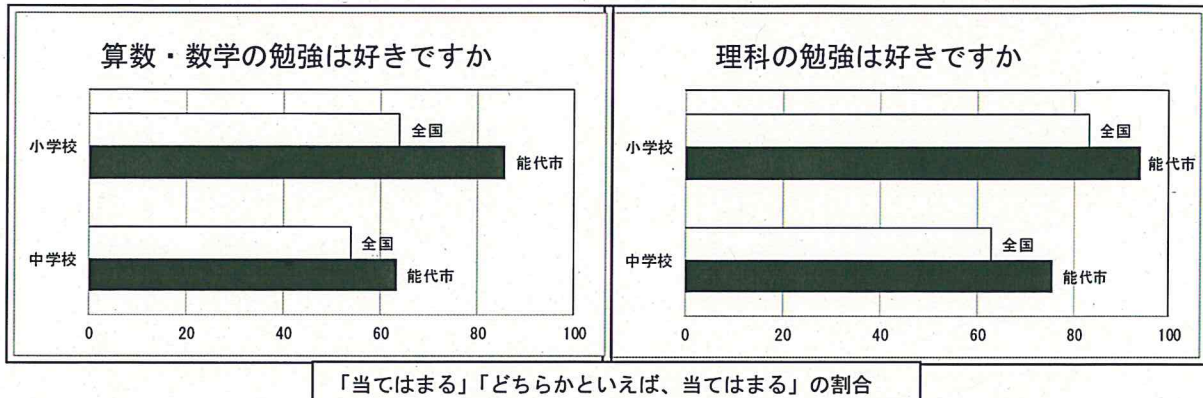
自然の物事・現象を科学的に探究する上で、「原因として考えられる要因」を全て挙げ、実験の計画を検討して改善することが考えられます。その際、他の分野や領域で身に付けた知識・技能も活用して、多面的な視点に立って考える時間を設定しましょう。

参照…H30 文部科学省報告書
中学校理科 P84～88

4. 質問紙調査結果(1)

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

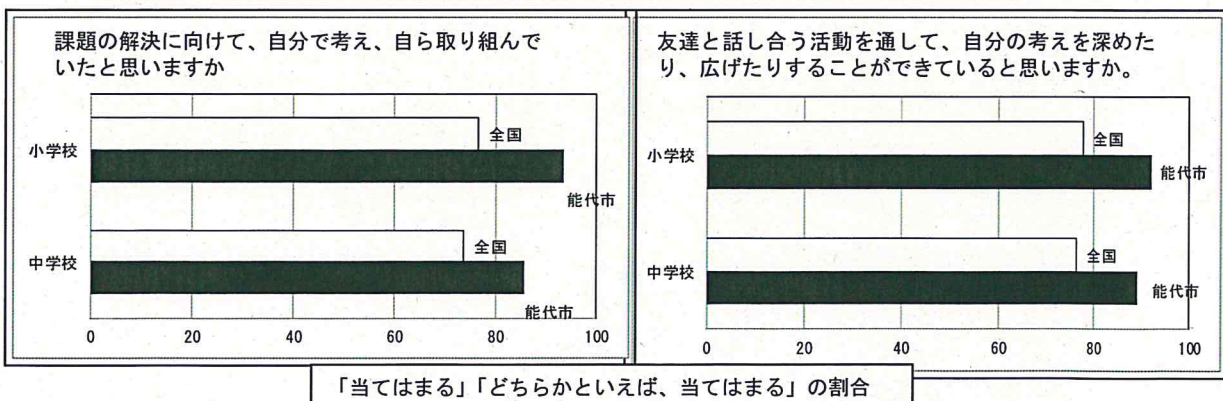
算数・数学、理科に対する関心や意欲が高い児童生徒が多い



小学校の算数、理科、中学校の数学、理科ともに、全国平均を大きく上回っています。

(2) 学習状況

- ・授業の中で、自分で考える活動が大切にされている
- ・自分の考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動が効果的に行われている

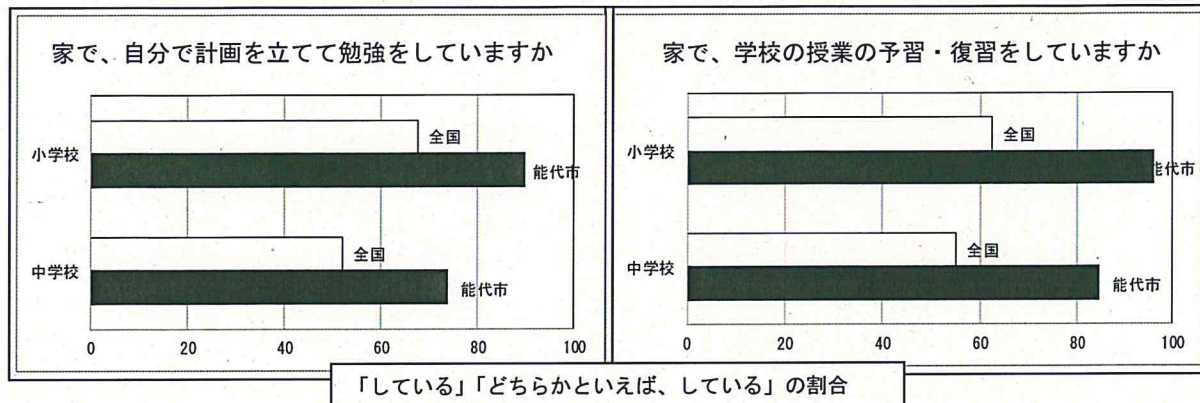


小・中ともに、全国平均を大きく上回っています。秋田の探究型授業が実践され、児童生徒が主体的に活動していることがうかがえます。

4. 質問紙調査結果(2)

(3) 学習時間

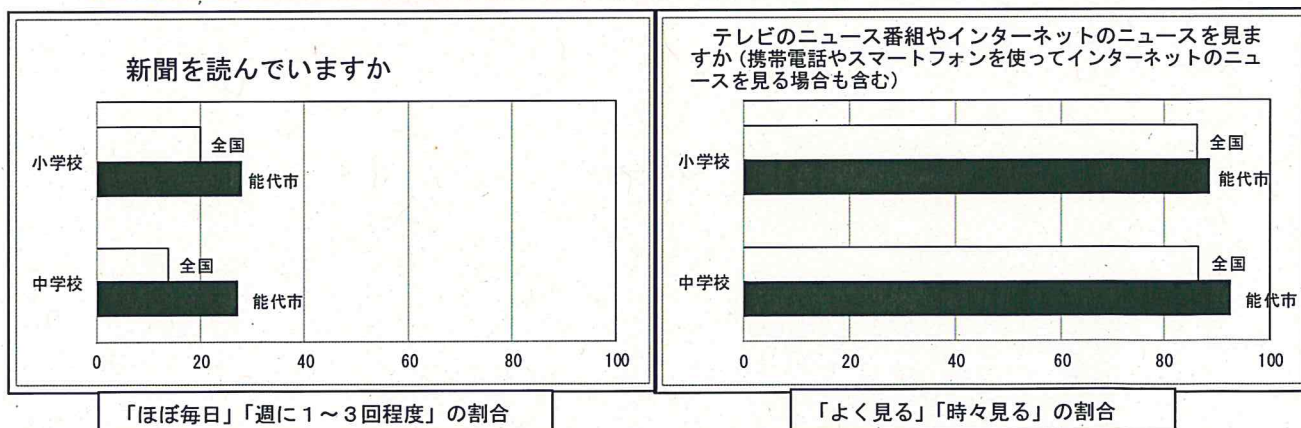
- ・家で、計画を立てて勉強する児童生徒が多い
- ・家で、学校の授業の予習・復習をする児童生徒が多い



- ・小・中学校ともに、どちらの項目も全国平均を20P以上上回りました。
- ・家庭学習の習慣は、各家庭の協力の下、定着してきています。

(4) 生活習慣

テレビやインターネットでニュースを見る児童生徒は多いが、新聞を読んでいる児童生徒は少ない



小・中学校ともに、全国平均を上回ってはいるものの、新聞を読む児童生徒が少ないことがうかがえます。学校や家庭で、新聞に触れる機会を増やしたいものです。

4. 質問紙調査結果(3)

(5) 家庭でのコミュニケーション

家で学校の出来事を話す児童生徒が多い

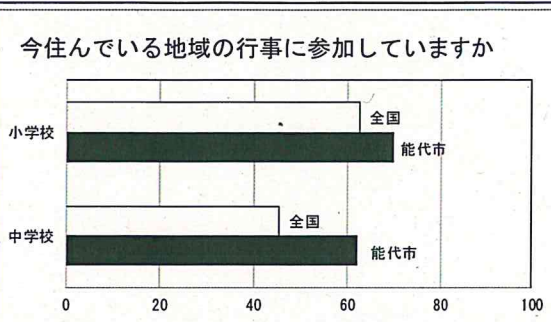


「している」「どちらかといえば、している」の割合

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。
家庭でのコミュニケーションが様々な問題の早期発見、早期解決につながっていきます。このあとも家族の時間を大切にするよう呼びかけてほしいと思います。

(6) 地域との関わり

地域の行事・ボランティアに参加している

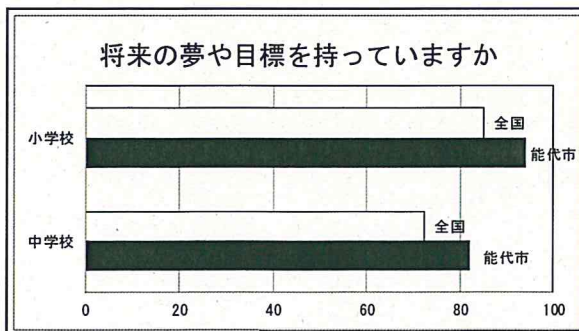


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

小学校では、全国平均を5 P 以上、中学校は10 P 以上上回っています。
ボランティア活動への参加に関しても、小・中学校ともに全国平均を上回っていました。

(7) 将来に関する意識

夢や目標をしっかりとっている

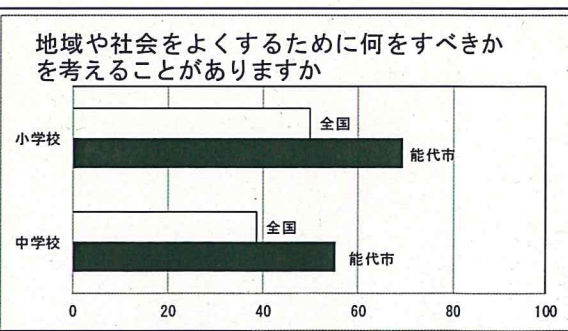


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

各校で取り組んでいる「ふるさと教育」や「キャリア教育」が効果を上げています。粘り強く努力し続ける姿勢や様々な知識や技術等を得ようとする意欲につなげてほしいと思います。

(8) 社会に対する興味・関心

中学生の興味・関心が低くなっている



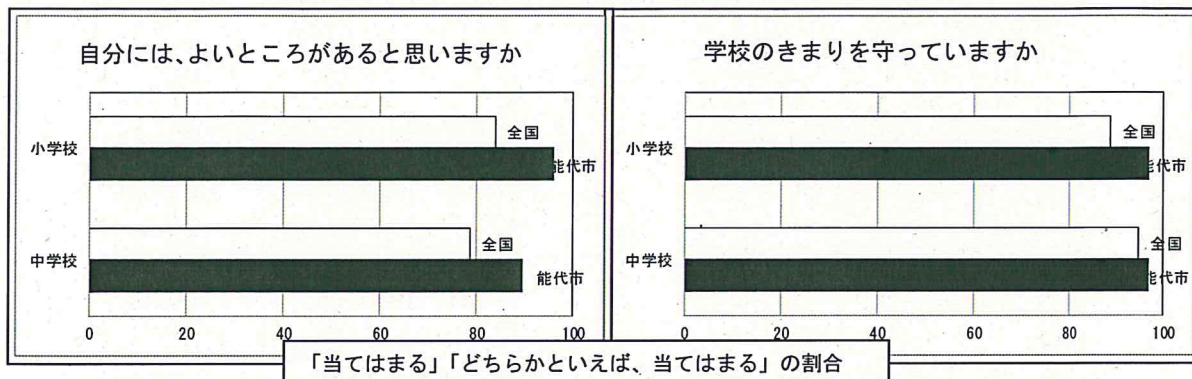
中学生の関心が更に高まることを期待しています。総合的な学習の時間等で、地域との関わりや地域への情報発信等の活動を計画的に位置付けて取り組んでほしいと思います。

4. 質問紙調査結果(4)

(9) 自尊意識・規範意識

自分には、よいところがあると思
っている児童生徒が多い

学校のきまりを守って生活して
いる児童生徒が多い



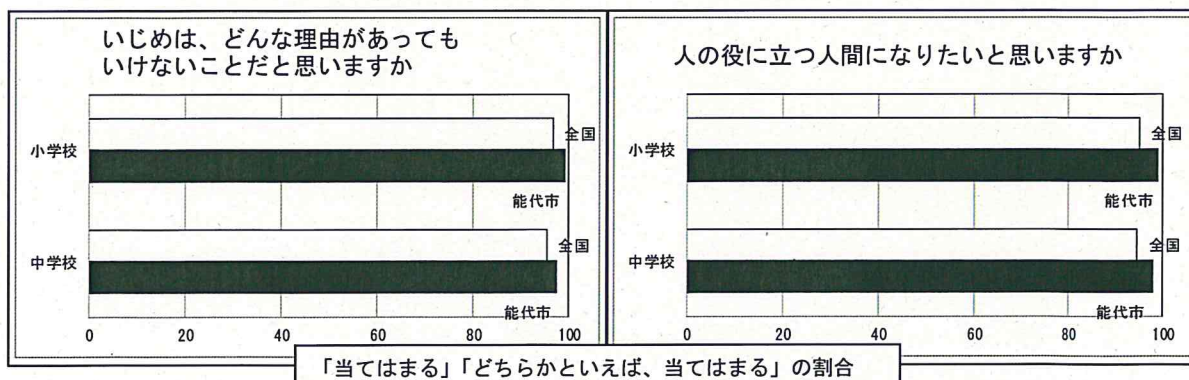
授業や学校行事等で活躍の場を与え、褒めて認めながら自己肯定感を高めていく配慮が必要です。

子ども同士でお互いのよいところを認め合う活動を、学習活動の中に位置付けることも大切です。

学校のきまりを守って生活しようとしている意識がとても高いことが分かります。安全・安心な学校をみんなで作ろうとする共通認識・共通実践が大切です。

「いじめはいけない」と思っている児童生徒が多い

人の役に立つ人間になりたいと思
っている児童生徒が多い



「いじめはどんな理由があってもいけない」ことについて、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通した継続的な指導が大切です。

一人一人に活躍の場を与え、見守り、やり遂げさせることで、達成感を味わわせましょう。また、子ども同士が認め合う等、人間関係づくりを支援しましょう。